

9-4			
主題	新人研修プログラムにおける心理的負担度評価(POMS-VAS)の有効性		
法人名・事業所名	社福)東京聖新会 特別養護老人ホームフローラ田無		
発表者(職種)	近藤洋正(事業本部 統括部長)		
共同研究(実践)者	尾林和子(施設長)、岡本佳美(介護主任)、近藤奈美(相談主任)、他		
電 話	042-468-5133	FAX	042-468-5288
事業所紹介	当施設は平成11年4月に開設し、「心づくしをみなさまへ～」を合言葉に ICF の視点から誰もが健康で安心して生活できる長寿社会の実現を目指しています。		

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

新人職員が適切な認知症ケアを実践できるよう多岐にわたる取り組みが一般的に行われているが、多くの場合、その具体的な効果の考察までには至っていないのではないかと考える。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

本研究では実践した研修プログラムに評価尺度を用いて検証し、その結果からより効果的な新人職員の指導・育成における方法について再考する。

《3. 具体的な取り組みの内容》

入職 3 年未満の常勤介護職員を対象に、1)認知症基礎研修を中心とした省察的实践を段階的に行った後、認知症の理解度等確認するアンケートを実施し取り組み前後による対象者の意識変化を比較する。2)心理的負担度評価(POMS-VAS)を導入し、取り組み前後の変化を計測する。

《4. 取り組みの結果》

1)適切なケアの理解、意識が高まり、取り組み全体の評価でも概ね好評価を得ることができた。
2)「怒り」、「疲労」、「混乱」の項目では統計学的に有意に改善が認められたが、「緊張感」「抑うつ」、「活気」の程度に変化は認められなかった。(危険率 5%)

《5. 考察、まとめ》

1)対象者は省察的实践から認知症ケアを再認識し、内発的動機を高めることができたのではないかと考えられる。2)各種取り組み結果を多角的、客観的に判定する材料として「評価尺度」を用いることは非常に有効であり必要性が高いと考えられる。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究に際しご本人、ご家族、所属機関長及び職員の承諾を文書で得た上、個人情報保護並びに秘密保持、肖像権についても配慮した。

《7. 参考文献》

- ・菅 民郎：実例でわかるアンケート調査と統計解析。ナツメ社、東京(2011)。
- ・奥田 千恵子：たったこれだけ！医療統計学。改訂 2 版、金芳堂、京都(2015)。

《8. 提案と発信》

福祉業界全般においても、評価尺度を効果的に活用することから、あらゆる分野において新たな気づき、視点を獲得できるのではないかと考える。